

植調協会だより

◎ 会議日程のお知らせ

・平成21年度冬作関係（麦類・いぐさ・水稻
刈跡）除草剤・生育調節剤試験成績中央検討会

日時：平成22年9月9日(木) 10:00～17:00

場所：浅草ビューホテル

〒111-8765

東京都台東区西浅草 3-17-1

TEL 03-3847-1111

「話のたねのテーブル」より

センブリ

廣田伸七

センブリは、日本薬局方で薬用植物として収載されている薬草のなかでもトップクスの薬草で、センブリというとなんか苦い薬草と思い浮かぶほど、強烈に苦い草がある。＜煎じて、千回振り出しても、まだ苦味がある＞ことからセンブリの名が付いたという。

センブリは日本特産のリンドウ科の二年生草本で、日本全国の雑木林や松林に生える。茎は四角形で高さ20cm前後、葉は細長い線形で、対生する。秋に茎先や葉腋に花冠の先が深く5裂し、白色で紫色の条線がある花を咲かせる。

センブリが医療薬として使われ始めたのは江戸時代の初期からで、遠藤元理の「本草弁疑(ほんぞうべんぎ)」(1681年)に、「腹痛の和方に合するには、此当薬(トウヤク：センブリの別名)」とあるのが最初



▲センブリ、秋に高さ20cm前後になり白い花が咲く

らしい。腹痛の良薬として効用が認められ、広まっていったのは江戸末期あたりからで、明治25(1892)年改正の第2版日本薬局方には竜胆(リンドウの根)に代替しうる薬草とされ、大正9(1920)年改正の第4版では正式に収載されて今日に至っている。苦味の成分はスエリチアマリニン、スエロサイド、ゲンチオピ

クロサイドなどの苦味配糖体によるもので、このかエリスロセントアウリン、オレアノール酸なども含まれている。

薬草としての採取時期は、秋の花が咲く頃が最適で、根ごと引き抜いて、日干しにして保存し、胃や腸が痛む時に、1日量0.3～1kgを煎じて服用すると効果がある。

これほどの効能のある薬草なので、以前から栽培の研究が行われたが、大量に栽培する技術はまだ開発されていないようである。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小 川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成22年8月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第44巻第5号

(送料270円)

印刷所 (株)ネットワン